

科学技術と想像力

岡山市・朝日塾中等教育学校高等部3年 万波 織梨



十月七日、今年のノーベル化学賞受賞者に、「ゲノム編集」の画期的な手法を開発したことが評価され、二人の女性が選ばれた。翌日の朝日新聞では、技術の活用や倫理的な課題について伝えられた。「生命科学の三大発明」と称されるほどであるからゲノム編集技術が私たちの生活に大きく役立つことは自明である。しかし一方で使い方を誤ると甚大な問題につながる諸刃の剣とも言える。

私は、この諸刃の剣という性質は、「ゲノム編集」に限らずあらゆる科学技術が持ち併せているものだと思う。原子力や人工知能が例として挙げられる。現在日本の供給エネルギーのうち原子力は六・五パーセント（二〇一九年）だが、原発事故以前は二五パーセント（二〇一〇年）を占め、資源の少ない日本にとって環境を汚すことな

く莫大な電力を生むことができる原子力はまさに夢のエネルギーと目された。しかしそれが爆弾に積みこまれると残酷な殺人兵器になる。そして、発電所の事故が起これば人体や環境への被害は免れない。人工知能については私たちの生活の中で広く活用されているが、悪用してフェイク画像が作られたり、近い将来人工知能が人間の知能を越え、戦争が発生するのではないかという見方があったりもする。このように、革新的で人々の生活を豊かにしてくれる科学技術であっても、凶暴な一面を見せることがある。

では、今後ますます科学技術が発展していくであろう中で、それらの技術と共存し、正しく使用していくために私たちはどうするべきだろうか。私は、想像力を持つことが大切であると考えている。

日本各地でメガソーラーの建設が進んでいる。地球の未来を考える上では、確かに太陽光による発電事業は有効な手段だ。だからと言って山を削って良い理由になるだろうか。土砂災害や生態系の崩壊。クリーンエネルギーを謳っていても想像力を働かせないままに利用してはデメリットを増やしてしまう。企業だけでなく、SNSを利用する時など、想像力を持つ責任は個人にもある。

科学技術が高度化すればするほど、人間が正しく使いこなすのは難しくなるのではないだろうか。作る時、人間を信頼できるか、想像してほしい。使う時、環境に悪影響は及ばないか、他人を傷つけないか、想像したい。研究者の努力によって生まれた技術がいつまでも輝かしいものであることを切に願う。

科学技術は、使い方を誤ると社会に悪影響をもたらす負の側面があることに着目。想像力の大切さを訴えるため、さまざまな事例を挙げ、説得力ある意見を展開しています。

寸評

2020年10月8日付 朝日新聞